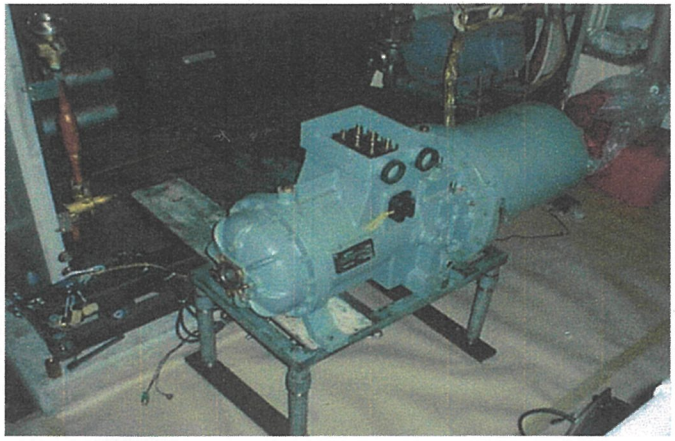
駆動の心臓である圧縮機。つねに一定の能力を発揮させるオーバーホールをおすすめします。

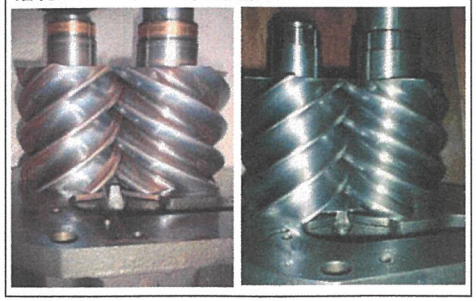
平素は日立製空調設備をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。
当社の空調設備機器におけるスクリュー圧縮機におきましては
ベアリング及び潤滑油となる冷凍機油を使用しております。
これらは消耗品であり、定期的に交換する作業、すなわち
オーバーホールを推奨しております。
圧縮機は冷凍サイクルを動かす唯一の駆動部分。
内部は機密構造で、外観からは内部の疲労や劣化は
わかりません。当社は専門家による定期診断、劣化部品の交換
内部清掃、整備を最新の技術で実施しています。



取外し



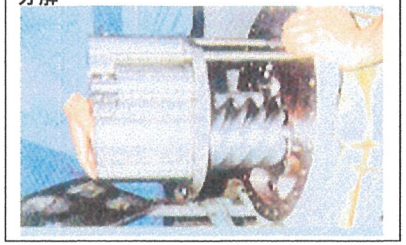
磨耗したスクリュー部(歯型)



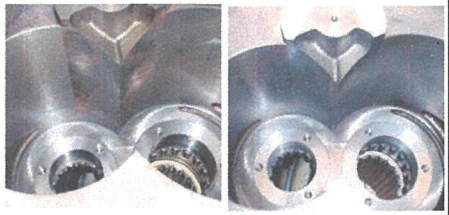
汚れた冷凍機油



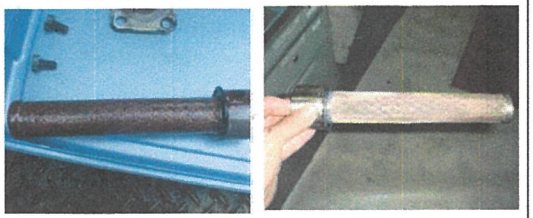
分解



磨耗した内部



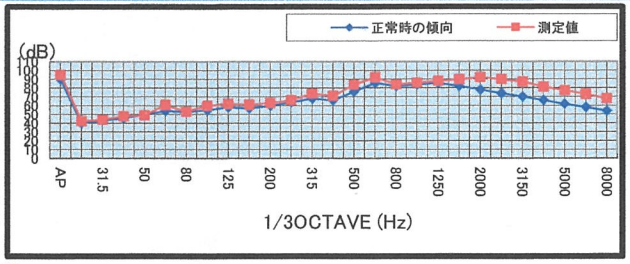
汚れたストレーナ



スクリュー圧縮機の日常点検及び定期点検基準

	年数又は年月 時　間	年　月	実　施　項　目
日常点検	—	毎日	1.運転状況(運転圧力、温度、電流)の記録
			2.異常音の有無(通常と違う音はないか。)
定期点検		6ヶ月	1.圧力計の点検(指針が極端にずれてないか。)
			2.潤滑油(冷凍機油)の点検(色の確認)
	4,800～8,000時間	1年 (毎年)	1.安全装置、保護装置の作動テスト
			2.圧力計、安全弁の検査(校正及び検定)
			3.熱交換器の汚れ確認(汚れていれば洗浄)
			4.潤滑油(冷凍機油)、ドライヤーの交換 (但し、汚れが著しくひどい場合)
			5.電磁開閉器の点検(特に接点部)
	水冷式:20,000時間 空冷式:12,000時間 又は 水冷式:40,000時間 空冷式:24,000時間	3年 又は 5年	1.圧縮機オーバーホール(部品交換)及び点検
			2.潤滑油(冷凍機油)、ドライヤーの交換
			3.電磁開閉器の交換
			4.逆止弁、膨張弁の点検(不良の場合は交換)
備考	いずれか短い方を採用		※ 用途、使用条件に応じて個々に作業項目を追加する必要があります。

騒音・周波数分析によるオーバーホールの予測診断



圧縮機内の軸受損傷の判断については、
音の変化を認識することが有効な手段の
ひとつと考えられますが、聴覚により
聞き分けるのは大変経験がいることです。
そのため計測器(騒音周波数分析器)により
測定分析し、正常品との差、或いは初期
値との差により軸受損傷の有無をとらえる
ことが現状では最も有効な方法であります。

メンテナンスによる品質管理及び危機管理

安全弁



圧力計



大きなトラブルを防止するために、定期的なメンテナンスを圧縮
機に限らず関連部品にも提案させて頂いております。

冷媒設備には、異常高圧になったときに、その圧力を装置の
許容圧力以下に戻すことができる安全弁を取り付けてます。
実際に使用状態での性能が満足な状態にあり、事故の発生が
避けられるための作動試験を行う必要があります。
また、安全弁・圧力計の作動試験は**高圧ガス保安法より
1年に1回以上行うことを定められております。**

HITACHI
Inspire the Next

日立ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾗｲﾌｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ
中部サービスエンジニアリングセンタ
TEL　０５６８－７２－０１３１
FAX　０５６８－７５－１５３４